

自民提言に「異論」

山口社環境相兼原子力防災担当相が13日の記者会見で、自民党が原発の防衛能力強化を求めたことに対し、事実上の「異論」を唱える場面がありました。

自民党の原子力規制特別委員会（鈴木淳司委員長）が山口担当相に提出（12日）した原発再稼働の審査効率化を求める提言は、原発攻撃を想定した訓練の徹底も求めています。提言への受け止めを問われた山口氏は、「ウクライナの」と（ロシアによる原発攻撃）を踏まえたとき、「ミサイルが飛んでくる」と、それを防げる原発はない。世界には一基もない。「これがひどい。だから戦争を防ぐっていうのが最大のポイントだ」と述べました。

山口環境相「ミサイル防げる原発ない」

あた、同様の安全保障調査会が原発防衛を含む「反撃能力」（敵基地攻撃能力）の保有に踏み込む提言を出したのも、【核共有】するぐらいの覚悟で原発を運営すべきだと問われた山口氏は「防衛をやる」とは当然だ」としつつ、「我々が鐵砲を持った回りも鐵砲を持つ。こっちがミサイルを持つたら回りもミサイル持つ。こっちが原爆持つたら回りも原爆持つ。世の中そういうものだから、やはりけんかにならないようになりますのが最大のポイントだ」と発言。戦後の国連を中心とする暴力行使禁止の仕組みがロシアの侵略で危機を迎えていたとして、その仕組みを整えて平和をつくる役割を担うために日本は頑張るべきだと強調しました。